

コンゴ民主共和国教育分野におけるジェンダー関連情報

1. ジェンダー関連政策・制度

<ジェンダー政策および制度>

- 2009年、コンゴ民主共和国政府は、「ジェンダー統合、家族の促進及び子どもの保護に係る国家政策」(Politique Nationale d'Integration du Genre, de Promotion de la Famille et de la Protection de l'Enfant) を策定した。本政策では、目指すビジョンとして次のものを掲げている：1) 政治面において、国家、州、地方機関にて50%が女性である事；2) 法律面において、国家及び地方の法律にジェンダー差別が含まれていない事；3) 社会文化面において、偏見や差別のない国である事；4) 経済面において、男女ともに経済活動への平等な参加の機会を持つ事。そして、同ビジョンの元、戦略的政策として次の柱を挙げている：1) すべての人（特に女子・女性）の教育や訓練へのアクセスの促進；2) 男女の経済的エンパワメントの強化；3) 国民（特に女性）の脆弱性の減少；4) 女性の民間及び政治への参画の促進。（出典1）
- コンゴ民主共和国政府の開発計画である DSCRPII（第二次貧困削減文書）は、1) ガバナンスの強化と平和の定着、2) 経済多様化、経済成長促進と雇用促進、3) 基礎社会サービスへのアクセス改善と人的資源の強化、4) 環境保護と気候変動対策、の四つの柱を掲げている。そのうち、2) の優先課題の一つとして「不平等及び脆弱性の削減」を挙げており、「ジェンダー平等の確保」も含まれている。2009年に採択された上記ジェンダー政策に言及した上で、ジェンダーに係る次の優先課題を挙げている。：1) 女性の経済的エンパワメント（教育・訓練システムの改善、雇用やクレジットへのアクセス等）；2) 女性の参画の促進（司法改革や法整備等）。（出典2）

出典

1. Government of DRC (2008) “Politique Nationale d'Integration du Genre, de Promotion de la Famille et de la Protection de l'Enfant”,
<http://stageciefgenre2009.t.s.f.unblog.fr/files/2009/09/politiqueegenrefamilleetenfant210072008.pdf>
2. Government of DRC (2011) “Document de la Stratégie de Croissance et de Réduction de la Pauvreté de Seconde Generation (DSCRPII)”,
<http://www.afdb.org/fileadmin/uploads/afdb/Documents/Project-and-Operations/RDC - 2011-2015 - Document de strat%C3%A9gie de r%C3%A9duction de la pauvret%C3%A9.pdf>

作成日： 2016年5月19日

<教育分野：政策および制度におけるジェンダー主流化の現状>

- 2009年に採択された「ジェンダー統合、家族の促進及び子どもの保護に係る国家政策」(Politique Nationale d'Integration du Genre, de Promotion de la Famille et de la Protection de l'Enfant)では、戦略的政策の柱の一つとして「すべての人(特に女子・女性)の教育や訓練へのアクセスの促進」が挙げられている。具体的な戦略目標としては、次のものを挙げている：1) 初等教育における男女の就学率の増加；2) 女子の留年率及び中退率の削減、6年生までの継続率の増加；3) 女子の職業訓練、科学及び技術教育、成人教育へのアクセスの増加；4) 科学分野への女子のアクセスの増加；5) 識字プログラムへの女性及び若者の参加の増加；6) 幼児教育への体制づくり。(出典1)
- 2011年に策定されたDSCRPII(第二次貧困削減文書)では、4つの柱の内の一つである「基礎社会サービスへのアクセス改善と人材の強化」にて、保健と教育を重点分野としている。特に教育では、初等教育、中等教育、職業訓練、成人識字力、高等教育、大学、科学研究に重きをおき、教育及び職業訓練へのアクセスの向上を目指している。また、同文書は2010年に採択された「初等・中等・職業訓練教育開発戦略(2010/11~2015/16)」に言及しており、同開発戦略の3つの目的の一つとして掲げている「教育の質及び妥当性の改善」の中で、技能・職業訓練の戦略として1) インフラの改修、2) 施設の近代化、3) 国内経済及び労働市場のニーズに合うカリキュラムへの改訂を挙げている。(出典2)

出典

1. Government of DRC (2008) "Politique Nationale d'Integration du Genre, de Promotion de la Famille et de la Protection de l'Enfant", <http://stageciefgenre2009.t.s.f.unblog.fr/files/2009/09/politiquegenrefamilleetenfant210072008.pdf>
2. Government of DRC (2011) "Document de la Stratégie de Croissance et de Réduction de la Pauvreté de Seconde Generation (DSCRPII)", <http://www.afdb.org/fileadmin/uploads/afdb/Documents/Project-and-Operations/RDC - 2011-2015 - Document de strat%C3%A9gie de r%C3%A9duction de la pauvret%C3%A9.pdf>

作成日： 2016年5月19日

<教育分野：ジェンダー主流化に係る関係機関>

機関名	備考(役職名など)
Ministry of Gender, the Family and Child	ジェンダーに係るフォーカルポイントとしての役割を担う。
各省のジェンダーフォーカルポイント	

各州のジェンダーフォーカルポイント及びジェンダー課	
出典	1. Swedish Embassy (2014) “Democratic Republic of Congo: Gender Country Profile” , http://www.swedenabroad.com/ImageVaultFiles/id_22003/cf_347/Gender_Country_Profile.PDF
作成日 : 2016年5月19日	

2. 教育分野 : JICA の支援状況

<概要>

<p>コンゴ民主共和国に対する日本の経済協力は、2011年に公表された第二次貧困削減戦略文書（PRSP2）及び2011年大統領選挙後に発足した新内閣の国家再建に関する5か年計画に基づく政府の取組を後押しするため、人材育成・能力向上、運輸交通インフラ、保健・水、等の経済社会基盤の整備を支援することを基本方針としている。重点分野の一つとして、「経済開発」を挙げており、職業訓練校の整備・技術指導・機材供与を通じて、労働人口の職能強化及び若者の自立支援を図る。（出典1）近年、ジェンダー分類されたJICA教育案件としては、「カタンガ州ルブンバシ市国立職業訓練校整備計画」がある。（出典2）</p>	
出典	<p>1. 外務省（2015）『国別データブック』、http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/files/000142285.pdf 『国別情報』、http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/region/africa/congomin/index.html</p> <p>2. JICA（2008～2013）『ジェンダー主流化推進年次報告書』、 http://gwweb.jica.go.jp/km/FSubject1501.nsf/03a114c1448e2ca449256f2b003e6f57/235082f59d8cf80c4925765700254d48?OpenDocument</p>
作成日 : 2016年5月19日	

<案件例>

案件名（協力年度）	カタンガ州ルブンバシ市国立職業訓練校整備計画（2016年度～）
<p>本案件は、カタンガ州ルブンバシ市国立職業訓練校において施設及び機材を拡充することにより、同校の機能強化を図り、もって同地域の産業人材育成に寄与することを目的としている。本案件の支援対象校は、1970年代に国際労働機関（ILO）より供与された施設・機材の老朽化や、</p>	

収容規模の限界により、在職者訓練向け、求職者訓練向けともに、鉱業を中心とする地域産業界の訓練ニーズに即した訓練の実施が困難であり、かつ、職業訓練として非効率的な体制での実施が余儀なくされていた。また、座学教室の不足、ICT環境の未整備などから、女性からの訓練希望が多い情報処理、商業・経営、教授法などの学科でも十分な訓練を実施できておらず、2013年のルブンバシ校全修了生に対する女性比は在職者で6.1%、求職者で18.6%に留まっている。本案件活動では、座学教室を含む新設棟を建設することにより、女性（紛争被害者を含む）の生計向上・社会復帰に資する縫製、ホテル・レストラン、美容・理容分野、及び従来より女性の職業需要が高い情報処理、商業・経営、教授法等の分野の訓練の新設・拡充を可能とする。また、女性訓練生も年々増加が予想されることから、更衣室とシャワー室を設置する。これらの活動から、より多くの社会的弱者（除隊兵士や紛争被害者の女性等）に対し、職業訓練の機会を提供できるようになり、紛争被害者を含む女性の起業・社会進出の促進に資することが見込まれる。（出典1、2）

出典	1. JICA、『事前事業評価表』、 http://www2.jica.go.jp/ja/evaluation/pdf/2016_1560630_1_s.pdf
	2. JICA（2015）『コンゴ民主共和国「カタンガ州ルブンバシ市国立職業訓練校整備計画」準備調査報告書』、 http://libopac.jica.go.jp/images/report/12246260_01.pdf

作成日： 2016年5月19日

<案件リスト>

No.	協力年度		事業形態	案件名	ジェンダー分類*1	ジェンダー視点
	開始	終了				
1	2016	2018	無償	カタンガ州ルブンバシ市国立職業訓練校整備計画	GI(S)	本事業により、より多くの社会的弱者（除隊兵士や紛争被害者の女性等）に対し、職業訓練の機会を提供できるようになる。

出典	1. JICA（2008~2013）『ジェンダー主流化推進年次報告書』、 http://gwweb.jica.go.jp/km/FSubject1501.nsf/cfe2928f2c56e150492571c7002a982c/235082f59d8cf80c4925765700254d48?OpenDocument
	2. JICA、『事前事業評価表』、 http://www2.jica.go.jp/ja/evaluation/pdf/2016_1560630_1_s.pdf

作成日： 2016年4月20日

*1ジェンダー分類：GI=ジェンダー主流化ニーズ調査・分析案件（Gender Informed）

GI(P)=ジェンダー平等政策・制度支援案件、女性を主な裨益対象とする案件（Gender Informed (Principal)）

GI(S)=ジェンダー活動統合案件（Gender Informed (Significant)）

3. 教育分野：他ドナーの支援状況

ドナー（1）	世界銀行（World Bank）
支援概要	コンゴ民主共和国では、2003年に内戦の和平合意が結ばれた一方、児童の11%が孤児となり、そのほとんどが学校に通っていない状況であった。初等教育の総就学率は、1995年から1999年の間に、119%から57%に低下した。留年率も高く、また、幽霊教師やコミュニティから選出された教師の数も多く、2001年時点で40%以上の教師が専門的な研修を受けたことがない状態であった。そんな中、2002年、コンゴ民主共和国政府は「万人のための教育に係る行動計画」を策定し、次の教育改革を掲げた：1）教育サービスの多様化及び改善；2）管理及びサービス提供の地方分権化；3）市民社会に焦点を当てた教育関連のパートナーシップの強化；4）教育の質の改善；5）教育セクター管理に係る効率性及び透明性の改善。係る状況下で、世界銀行は下記のプロジェクトを開始した。
案件例	<i>Support to Basic Education Project (2005-2013)</i> 本プロジェクトは、2015年までに普遍的かつ質の高い初等教育を達成することを念頭に、コンゴ民主共和国における基礎教育の効率性、質、平等性を改善することを目的とした。コンポーネントとしては、次の4つのものがある：1）初等中等教育識字省（Ministry of Primary, Secondary Education and Literacy）の能力強化；2）学校施設の改修；3）教育の質の改善に係る支援；4）非就学児童へのフォーマル／インフォーマル教育サービスの提供。本プロジェクトは、ジェンダー平等及び社会開発へのインパクトを確認し（2013年、初等教育の就学率に係る男女比が、0.91から0.96に上がった）、トイレの建設が女子の出席を促進した可能性があると指摘している。また、本プロジェクト活動にて学校運営委員会を設立したことが、学校生活におけるコミュニティの関与の強化につながったことにも言及している。（出典1）

出典	1. World Bank (2014) “Support to Basic Education Project”, http://www-wds.worldbank.org/external/default/WDSContentServer/WDSP/IB/2014/04/17/000456286_20140417141457/Rendered/PDF/ICR29380P084310C0disclosed040160140.pdf
作成日： 2016年4月20日	

4. SDG: ジェンダーと教育に関する目標およびターゲット

目標	ターゲット
4. すべての人に包摂的かつ公正な質の高い教育を確保し、生涯学習の機会を促進する	4.1 2030年までに、すべての子どもが男女の区別なく、適切かつ効果的な学習成果をもたらす、無償かつ公正で質の高い初等教育及び中等教育を修了できるようにする。 4.2 2030年までに、すべての子どもが男女の区別なく、質の高い乳幼児の発達・ケア及び就学前教育にアクセスすることにより、初等教育を受ける準備が整うようにする。 4.3 2030年までに、すべての人々が男女の区別なく、手の届く質の高い技術教育・職業教育及び大学を含む高等教育への平等なアクセスを得られるようにする。 4.4 2030年までに、技術的・職業的スキルなど、雇用、働きがいのある人間らしい仕事及び起業に必要な技能を備えた若者と成人の割合を大幅に増加させる。 4.5 2030年までに、教育におけるジェンダー格差を無くし、障害者、先住民及び脆弱な立場にある子どもなど、脆弱層があらゆるレベルの教育や職業訓練に平等にアクセスできるようにする。 4.6 2030年までに、すべての若者及び大多数（男女ともに）の成人が、読み書き能力及び基本的計算能力を身に付けられるようにする。 4.7 2030年までに、持続可能な開発のための教育及び持続可能なライフスタイル、人権、男女の平等、平和及び非暴力的文化の推進、グローバル・シチズンシップ、文化多様性と

	<p>文化の持続可能な開発への貢献の理解の教育を通して、全ての学習者が、持続可能な開発を促進するために必要な知識及び技能を習得できるようにする。</p> <p>4.a 子ども、障害及びジェンダーに配慮した教育施設を構築・改良し、すべての人々に安全で非暴力的、包摂的、効果的な学習環境を提供できるようにする。</p> <p>4.b 2020年までに、開発途上国、特に後発開発途上国及び小島嶼開発途上国、ならびにアフリカ諸国を対象とした、職業訓練、情報通信技術（ICT）、技術・工学・科学プログラムなど、先進国及びその他の開発途上国における高等教育の奨学金の件数を全世界で大幅に増加させる。</p> <p>4.c 2030年までに、開発途上国、特に後発開発途上国及び小島嶼開発途上国における教員研修のための国際協力などを通じて、質の高い教員の数を大幅に増加させる。</p>
5. ジェンダー平等を達成し、すべての女性及び女児の能力強化を行う	5.b 女性の能力強化促進のため、ICTをはじめとする実現技術の活用を強化する。
8. 包摂的かつ持続可能な経済成長及びすべての人々の完全かつ生産的な雇用と働きがいのある人間らしい雇用(ディーセント・ワーク)を促進する	8.6 2020年までに、就労、就学及び職業訓練のいずれも行っていない若者の割合を大幅に減らす。

5. 参考情報

ジェンダーと教育 (JICA内の執務参考資料、他ドナーの資料)	
JICA、『JICA事業におけるジェンダー主流化のための手引き【教育】』	ジェンダー平等・貧困削減室にて入手可能
ADB, “Gender Checklist: Education”	http://www.adb.org/publications/gender-checklist-education
UNICEF, “Operational Guidance on Gender Equality:”	http://www.unicef.org/gender/files/BasicEducation_Layout_Web.pdf

Basic Education”	
World Bank (2008) “Girl's Education in 21 st Century: Gender Equality, Empowerment, and Economic Growth”	http://siteresources.worldbank.org/EDUCATION/Resources/278200-1099079877269/547664-1099080014368/DID_Girls_edu.pdf
コンゴ民主共和国におけるジェンダー状況	
JICA (2017) 『国別ジェンダー情報整備調査報告書 (コンゴ民主共和国)』	http://gwweb.jica.go.jp/km/FSubject1501.nsf/03a114c1448e2ca449256f2b003e6f57/a0b426e5087691cf49257afe000cdf45/\$FILE/ATT17T5Y.pdf/%E6%97%A5%E6%9C%AC%E8%AA%9E%E7%89%88%202017.pdf
JICA (2017) “Country Gender Profile (Democratic Republic of Congo)”	http://gwweb.jica.go.jp/km/FSubject1501.nsf/03a114c1448e2ca449256f2b003e6f57/a0b426e5087691cf49257afe000cdf45/\$FILE/ATTD96S1.pdf/%E8%8B%B1%E8%AA%9E%E7%89%88%202017.pdf
OECD, “Democratic Republic of Congo Country Gender Profile”	http://www.genderindex.org/country/congo-dem-rep
Swedish Embassy (2014) “Democratic Republic of Congo: Gender Country Profile”	http://www.swedenabroad.com/ImageVaultFiles/id_22003/cf_347/Gender_Country_Profile.PDF
USAID (2012) “Gender Assessment for the Democratic Republic of Congo”	http://pdf.usaid.gov/pdf_docs/PA00J27G.pdf
コンゴ民主共和国の教育分野における調査報告書、良事例など	
	作成日 : 2016年4月20日

6. その他、現地調査で得られた情報

作成日 :	